

論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 先 第 号	氏 名	井 若 和 久
審査委員	主査 中野 晋 副査 山中 英生 副査 上月 康則		
学位論文題目			
徳島県における巨大地震・津波に対する事前復興まちづくり計画に関する実践的研究			
審査結果の要旨			
<p>本研究は、「災害」と「社会」のリスクが差し迫り、持続の危ぶまれる地域で「事前復興まちづくり計画」を提案し、実践をしつつ、地域特性から発生する課題、その対策と成果を明らかにすることを目的としたものである。本研究の特徴は、1)「事前復興まちづくり計画」を提案、2)持続の危ぶまれる地域で実践、3)現在世代と将来世代の2つの異なる世代で取組、4)自身が住民となった参与型研究の4点がある。</p> <p>事前復興まちづくり計画を提案し、その定義として、「行政を待たずして住民が主体となり、まちのリスクを受け止め、復興を含めたまちの将来像を共有するといった「まちづくりプラン」としての事前復興の取り組み」を示すことができた。その立案プロセスは、①住民からの発意、②地域の骨格、魅力や課題等の現状整理、③地域で継承すべきものの抽出と共有化（未成年も尊重）、④災害と地域継承の歴史の整理、⑤地域継承に及ぼす次の災害の影響評価、⑥地域継承のための方策立案である。研究では、プロセスの①～④までを実践し、成果をあげることができた。美波町では、3 地区ばらばらにあった防災の取り組みを、「よそ者」の町民が中立者として仲介することで、一つの取り組みにまとめることができた。②について最も指摘する人が多かったのはコミュニティで、③で大切にすることは命が挙げられた。④では歴史地震を振り返ると過去から避難が原因で、多くの人が死亡していたことがわかった。また幾度の津波碑でも同じことが書かれていることから、何度も同じ過ちを起していることが明らかになった。他に、将来世代についても防災学習をし、事前復興まちづくり計画に対する意識を高めることができた。</p> <p>以上、本研究は、防災工学の分野で新しい成果をえることに成功しており、本論文は博士（工学）の学位授与に値するものと判定する。なお、本論文の審査には、山中亮一講師の協力を得た。</p>			

論文内容要旨

報告番号	甲 先 第 199 号	氏 名	井若 和久
学位論文題目	徳島県における巨大地震・津波に対する 事前復興まちづくり計画に関する実践的研究		
内容要旨			
<p>持続の危ぶまれる地域での事前復興まちづくり計画を提案し、それを実践しつつ、地域特性から発生する課題、その対策と成果を明らかにすることを目的とした。具体的には、事前復興まちづくり計画に関する事例、既往研究を整理し、徳島県内の代表的な地域で計画立案の取り組みを始めた結果、以下の結論を得ることができた。</p> <p>1) 美波町由岐湾内地区での参与観察によって、その初動期における課題を適宜見出し、課題解決することができた。まず、これまでの地域の歴史的背景から、3つの地区に分かれていたものを中立的な立場の仲介者が入ることで、一つの団体にまとめることができた。また専門的知識についての学習会を行うことで、事前復興まちづくり計画への理解が深まり、「あきらめる」気持ちから具体的な事前復興の事業へと進展させることができた。ただし、地域を活性化させる内容にはなっていない点は今後の課題である。また、事前復興まちづくり計画への意欲を知るために、ヒアリング調査を行った結果、避難、自助の意識は非常に高く、その背景には「迷惑をかけたくない」というコミュニティにおける他者への意識が防災意識を生み出していることも見出すことができた。ただし、将来世代への地域継承の点では、継承すべきものが見あたらないとする意見も多数あった。また震災前にも発災後には町外で生活すると考えている方も多数あった。これらの意見は、事前復興面での課題だけではなく、震災前過疎を進行させるように働く恐れもあるため、これらの意見の背景、理由などを分析し、適切な対策を検討していく必要があることが明らかとなった。</p> <p>2) 事前復興まちづくり計画に関する中学校用学習プログラムを開発し、徳島市立津田中学校で実施、評価することができた。6つの学習目標達成度の内、「③まちの災害史を知る」といった項目が最も高かった。「⑥持続可能なまちづくりを考える」についてもある程度理解されていたが、生徒の未来への想像力を高めるためには、今後、東日本大震災での被災後の社会状況を整理し、被災後の社会や生活を想像できる教材を充実させる必要があることがわかった。また、学習目標達成度の高かった班には、班員の意見を引き出し、まとめるリーダーがいた。今後、生徒の配置にも配慮すれば、よりよい計画立案も可能になると思われる。全ての班の事前復興まちづくり計画案には、住民意見が取り入れられていた。「防災・減災」に関する内容は、各班から地盤の嵩上げ、防潮林の整備などが提案されていたが、中には、まち全体を嵩上げし、防潮堤を一切設けないというまちの魅力を失うことなく、防災対策を行うことを考える班もあった。「事前復興」に関する内容は豊富ではないが、まちづくりと事前復興とを関連付けた内容が二、三あった。学習内容は生徒に留まらず、生徒から家族や友人・知人にまで広がっていた。防災、まちづくりの現在の中心世代と将来の中心世代とで知識や認識が共有されたことは、事前復興まちづくり計画を進める上でも高く評価された。</p>			